

6月定例会太田議員の一般質問



米原市民報

日本共産党米原市議団
清水隆徳 Tel.52-1969
藤田正雄 Tel.55-1128
太田幸代 Tel.54-2286

<http://www.jcp-maibarashigidan.com>

新生児聴覚スクリーニングに補助を

子育て支援の充実を

6月2日の一般質問の詳細をお知らせします。日本共産党米原市議団の2番手は太田幸代市議が質問に立ちました。太田市議は自身の経験と他市の調査に基づき、米原市の出会いから結婚、妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援策と18歳選挙権に伴う投票率向上策を訴え一般質問を行いました。そしてその答弁内容です。

米原市では「県内一子育てしやすいまち」の実現を目標に、出会いから、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を目指しています。出会いの支援としては「赤い糸発見事業」、子育て支援としては、子育て世代の経済負担の軽減を図るため中学3年までの医療費無料化や第2子以降の保育料無料化などに取り組み、子育て世代からも大変喜ばれています。若い世代が米原市への定住を促すためにも、行政による切れ目のない支援が重要です。そのなかでも妊娠・の支援策は特に重要な部分であると思います。子育て中の友人と話をするなかで「米原市は公園が少ない」「近所に住む同世代の子どもと知り合う機会がない」とか「母子手帳はかわいくない」といった話も出てきますが、やはり経済的理由で悩んでいる方が多いです。より充実した制度の拡充に向けて質問をします。

①他市に先駆け力をいれて子育て支援に取り組む必要があります。子育て支援として、出産祝い金制度を設けてはどうか。
A、市独自の子育て支援策として、出産祝い金制度を設けることは、今のところ考えておりません。
②多賀町には出産祝い金とは別に、満2歳までを対象に月二千元を限度とした紙おむつや粉ミルクへの助成制度があります。子育て応援手当のような制度を市でも導入できませんか。

A、一過性の限られた支援でなく、年齢幅も広く、もう少し長期に渡る子育てを支援したいと考えています。
③「新生児聴覚スクリーニング」という検査があります。もし赤ちゃんの耳の聞こえに問題があることに気付かずにいると、その後の言葉の発達に大きく影響してしまいます。こうした状況を防ぐために、検査費用の全額または一部でも補助できませんか。
A、検査を必須項目にすることにこそ利点あると考え、県や国に要望していきます。
④子どもが生まれると必要になるものがチャイルドシートです。以前、旧町時代には支援制度があったと聞いていますが、復活できませんか。
A、現在では補助金制度を設けておりませんので、御理解願います。

①新有権者となる18歳、19歳の青年は市内に何人いますか。
A、平成28年5月1日現在で18歳および19歳の人口は873人です。
②市で行なわれている投票率向上のための取り組みについて、その成果と課題は何ですか。
A、選挙に関する啓発活動に協力いただける方を明るく選挙推進サポーター」として募集しています。街頭啓発活動などで、市民の選挙に対する関心を更に高めていきたいと考えています。

⑤市内に産婦人科・小児科がないことについてどう考えていますか。
A、湖北圏域の施設をご利用いただくことで、安心いただけるかと考えています。

18歳選挙権実現に伴う投票率向上のための取り組み
公職選挙法が改正され、18歳以上の青年に選挙権が与えられ、約240万人が新有権者となりました。初めて選挙に行く際に行かないかは、その後の投票行動にも関わる重要な問題です。投票率を向上させるため、期日前投票の投票時間の拡大や、人が多く集まる駅やショッピングセンターなどに「共通投票所」を設置できるようになりま

①18歳選挙権の実現に伴い、青年の政治参加を増やしていくために主権者教育の充実も大切です。本市における取り組みは。
A、市内の高校や教育委員会と連携を図り、模擬投票などの実践活動を通して若者が多様な考え方を知り、自ら課題を見つけて解決策を探る行動につなげることで、政治参加意識を高められるよう取組を進めていきます。

